



2021年4月28日

国立大学法人 東京医科歯科大学  
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

## 東京医科歯科大学とあいおいニッセイ同和損保が包括連携協定を締結

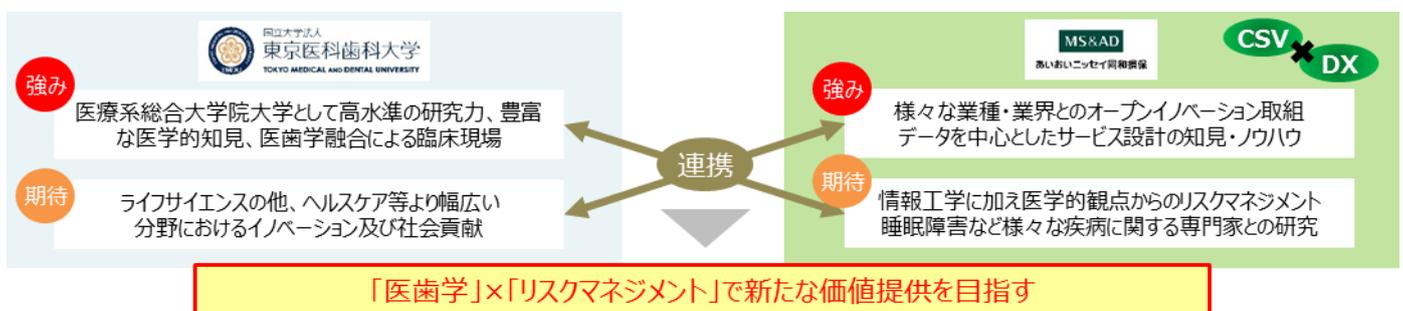
### ～VUCA 時代に立ち向かう医学的リスクマネジメントの実践へ～

国立大学法人東京医科歯科大学（学長：田中 雄二郎／以下、東京医科歯科大学）とMS & A Dインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉 恭三／以下、あいおいニッセイ同和損保）は、2021年4月27日付けで「TMDU オープンイノベーション制度」に基づく連携協定を締結し、疾病とヒューマンエラーの相関性の分析・研究から「VUCA※時代に立ち向かう医学的リスクマネジメント」を実践し、「真に安心・安全な社会」の実現を目指します。

※Volatility（変動性・不安定さ）、Uncertainty（不確実性・不確定さ）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性・不明確さ）という4つのキーワードの頭文字から取った造語、社会やビジネスにおいて将来の予測が困難になっている状態

#### <背景・目的>

- 「VUCA 時代」と呼ばれる現代社会において、あいおいニッセイ同和損保は、テレマティクス自動車保険を通じて、保険商品による「リスクの転嫁」だけでなく、情報工学・ビッグデータを活用し、「安全運転診断」「注意喚起」など、交通事故削減に向けた運転リスクの検知・回避・予防に資するサービスを展開してきました。今後も社会的課題解決に向けてデータ・デジタルを活用した共通価値創造（CSV×DX）に資する保険商品・リスク予防サービスの拡大を目指しております。
- 一方、医学部と歯学部からなる国立大学で唯一の医療系総合大学院大学である東京医科歯科大学は、2018年12月にオープンイノベーション機構を設置し「組織」対「組織」の産学連携の取り組みを加速させることにより、大学の有している研究力、医学的知見、医歯学が融合する附属病院の臨床現場などの強みを活かした革新的な医療・健康イノベーション創出を目指しております。
- 今般、両者の思いが一致し、東京医科歯科大学とあいおいニッセイ同和損保は連携協定を通じて、保険の新たなサービスとして、従来の情報工学だけではなく、医学的アプローチを加え、よりパーソナライズされたリスクマネジメントを提供し、「真に安心・安全な社会」の実現を目指します。

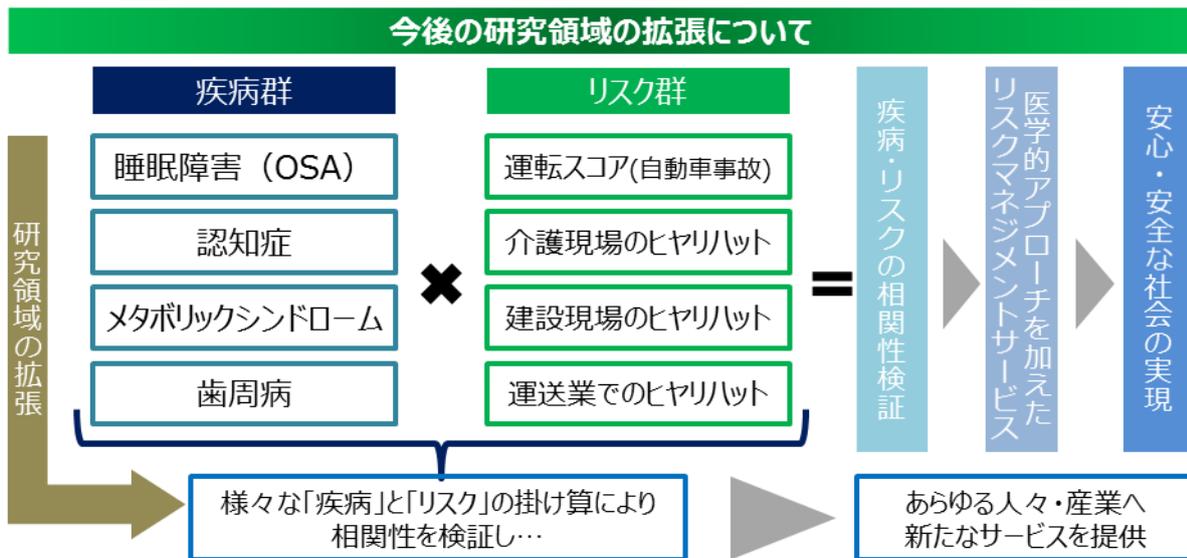


#### <協定内容①>「疾病」と「ヒューマンエラー」の相関性分析

- 「疾病」と「ヒューマンエラー」の相関性を分析し、研究で得た知見・成果をもとに、事故やリスクを未然に防ぐヘルスケアサービスの開発を目指します。2021年度はドライビングシミュレーターを用いた「睡眠障害」と「運転挙動」の相関性に関する実証実験を検討

しており、自動車事故に関する新たな予防サービスを目指します。

- 今後は「認知症」や「歯周病等による歯の健康の低下」など、研究対象となる「疾病」の種類を拡大し、また運転にとどまらず、様々な行動におけるヒューマンエラーとの相関性に関する研究領域を通じて、保険サービスの拡大を目指していきます。



### <協定内容②>「人材交流・育成」

- 東京医科歯科大学では 2020 年 4 月に医学・歯学・医療にフォーカスしたデータサイエンスの研究・教育拠点として M&D データ科学センターを設立し、医療分野におけるデータサイエンス専門家の養成に注力しております。
- 一方、あいおいニッセイ同和損保もデータサイエンス分野の取組として、2018 年 6 月に専門組織（経営企画部データソリューション室）を設立し、テレマティクス自動車保険における走行、契約・事故、お客様の声のデータなどの分析を通じた新しいサービス創造や業務効率化を進めております。
- 今回の提携によって、他に無い医療分野に強みを持つデータサイエンティストの育成や実践教育の場を設け、保険ビジネスの拡大を目指し、今後更に協業を進めていく予定です。

### <今後に向けて>

- 東京医科歯科大学では今回が保険会社との初めての包括連携協定締結となり、この協定を通じ医学から歯学まで幅広く有する医学的知見や臨床現場を有効に活用しヘルスケアや保険分野等におけるイノベーションや社会貢献の実現を目指します。
- 一方、あいおいニッセイ同和損保も医療系総合大学との初めての包括連携協定締結となり、走行データの利活用など従来の情報工学だけでなく、今回医学的なデータに基づくアプローチが加わること（＝DX の推進）で、新たな事業機会を創出します。
- 今回、両者での連携を進めるとともに、本取組の目的・ビジョンに共感いただける企業や地方公共団体へ研究成果等を開放し、様々なパートナーシップを構築しながら、「サービス開発」を通じたビジネス共創（＝CSV の実現）を目指します。



以上